



ENEOS

2023年1月26日
ENEOSホールディングス株式会社

第57回ENEOS児童文化賞・第52回ENEOS音楽賞 授賞式開催！

2022年12月2日(金)当社にて開催いたしました。

第57回 ENEOS児童文化賞 :アフリカ子どもの本プロジェクト(NGO)
第52回 ENEOS音楽賞 邦楽部門 :鶴澤 津賀寿 様 (女流義太夫三味線方)
第52回 ENEOS音楽賞 洋楽部門 本賞 :野平 一郎 様 (作曲家・ピアニスト・指揮者)
第52回 ENEOS音楽賞 洋楽部門 奨励賞 :脇園 彩 様 (メソソプラノ)

ENEOSホールディングス株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:齊藤 猛)は、「第57回ENEOS児童文化賞」および「第52回ENEOS音楽賞」の授賞式を12月2日(金)に当社にて開催いたしました。受賞者には、正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈いたしました。

ENEOS児童文化賞およびENEOS音楽賞は、1966年に児童文化賞、1971年に音楽賞を創設して以来、半世紀以上にわたり、わが国の児童文化・音楽文化の発展に大きな業績をあげられた個人または団体を顕彰してまいりました。



左から、当社社長 齊藤猛、脇園彩様代理人 株式会社AMATI 岡部雅弥様、野平一郎様、鶴澤津賀寿様、アフリカ子どもの本プロジェクト代表さくまゆみこ様

ENEOSホールディングス株式会社

広報部 広報グループ 〒100-8161 東京都千代田区大手町一丁目1番2号 TEL: 03-6257-7150 www.hd.eneos.co.jp



ENEOS

<第57回ENEOS児童文化賞・第52回ENEOS音楽賞 授賞式開催概要>

◆日時：2022年12月2日(金) 13:00～13:30

◆会場：ENEOSホールディングス株式会社本社

※関連情報につきましては、こちらのリンクよりご覧いただけます。

https://www.hd.eneos.co.jp/csr/child_reward/

<各賞の受賞者と贈賞理由>

◆第57回 ENEOS児童文化賞：アフリカ子どもの本プロジェクト(NGO)代表さくまゆみこ様



【贈賞理由】

絵本『エンザロ村のかまど』（文：さくまゆみこ 絵：沢田としき）の刊行をきっかけに、2004年、ケニア西部のエンザロ村に子ども図書館「ドリームライブラリー」開設にたずさわった有志が設立して以来、同NGOは18年間にわたってアフリカと日本の子どもたちを本でつなぐ活動を精力的に続けている。現地の子どもの図書館を継続的に支え、識字や読書欲求に応えるべくケニア以外のアフリカ各地にも本を届けるとともに、アフリカの文化を日本の子どもたちに伝えるため、アフリカに関する子どもの本の選書を継続し、それを展示しての図書展や、文化イベント、講演会などを約100名の会員のボランティアで地道に全国各地で催している功績を高く評価したい。(児童文化賞 選考委員会)

◆第52回 ENEOS音楽賞 邦楽部門：鶴澤 津賀寿 様（女流義太夫三味線方）



ENEOSホールディングス株式会社

広報部 広報グループ 〒100-8161 東京都千代田区大手町一丁目1番2号 TEL: 03-6257-7150 www.hd.eneos.co.jp



ENEOS

【贈賞理由】

義太夫節の三味線演奏家である鶴澤津賀寿さんは、これまで女流義太夫節界の三味線を牽引してきた。このジャンルでの唯一の人間国宝である太夫の竹本駒之助師の相三味線として多くの舞台を務めてきた。人形を伴う文楽における義太夫節演奏とは違い、女流義太夫節は語りと三味線による素浄瑠璃であるが、津賀寿さんの三味線は太夫との阿吽の呼吸の中で登場人物のせりふや情景を浮き立たせる魅力によって国内外の聴衆を魅了している。最近、義太夫三味線のための創作活動にも取り組み、古典的な手法の中に新しい風をもたらしている。さらに2019年に発足した胡弓・地歌三味線・尺八・義太夫三味線という異色の組み合わせによるアンサンブル「SATZ」で新たな挑戦を始めている。本委員会は、鶴澤津賀寿さんの卓越した演奏と多面的な活動を評価し、彼女がこれからも日本音楽に寄与することを期待する。

（音楽賞邦楽部門 選考委員会）

◆第52回 ENEOS音楽賞 洋楽部門 本賞：野平 一郎 様（作曲家・ピアニスト・指揮者）



【贈賞理由】

現代は、ルネサンス時代のように多分野にわたって人並み外れた能力を発揮する万能の天才の出現は難しいといわれる。領域の分化や専門化がより先鋭化し、どれ一つをとっても充実した成果を収めることが容易ではなくなったからである。しかし音楽の多様な分野で超一級の成果を上げ続ける人がわが国にもいる。野平一郎氏は、フランス IRCAMなどからの委嘱作品を始め、その作品が2度にわたって尾高賞を受賞したわが国屈指の作曲家であり、ピアニストとしては、古典から現代までの幅広いレパートリーで、室内楽奏者やソリストとして力量を発揮、近年は指揮者としても活躍の場を広げている。しかもベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の詳細な研究書を上梓する音楽研究者でもあり、さらには静岡音楽館AOIの芸術監督や東京文化会館の音楽監督として、館運営のみならず企画にまで優れた手腕を見せるなど、まさに多くの分野にわたって、縦横無尽の活躍を展開している。これまで重ねられてきた稀有の業績とわが国音楽界への貢献を顕彰するとともに、今後のさらなる活躍を期待して、ENEOS音楽賞本賞を贈賞する。

（音楽賞洋楽部門 選考委員会）



ENEOS

◆第52回 ENEOS音楽賞・洋楽部門 奨励賞：脇園 彩 様（メゾソプラノ）



（海外ご在住のため、授賞式はご欠席）

【贈賞理由】

国際的に最も注目される若手歌手の一人としてイタリアを中心に活動する脇園彩は、2014年ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』メリベア侯爵夫人役でのデビューを皮切りに、同フェスにたびたび出演するなど見事な実績を重ねている。日本では2017年、藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナ役でデビューして以来主要な公演での出演を続け、そのつど新鮮な驚きと賞賛で迎えられてきた。ロッシーニなどの演奏至難の曲を軽やかな美声で完璧に歌いあげる高度のテクニックを大きな支えとしつつ、劇場感覚に富んだ演唱で感情表現を深め、人物像を真実味豊かに創造する能力は抜群。そのオペラ歌手としての総合的表現力を今後も積極的に生かしつつ歩みを進めることが期待されている。

（音楽賞洋楽部門 選考委員会）

以上